

11番 土屋 耕二 議員

1 教員の働き方改革について

- (1) 小中学校における教員の働き方については、近年、全国的に長時間労働や業務過多が大きな社会問題となっている。まず本市において、教員の勤務環境の現状にどのような認識を持っているか、見解を示されたい。
- (2) 本市においても、教員の働き方については学校運営協議会等での議論を経て、業務の優先順位を定めるなど改善に努めていると聞いており、残業時間も減っているようにも推計される。一方、現場では「心身ともに疲弊している」という声も多くあるのも事実ではないか。
- 数値では測れない、現場の生の声を把握するためにも、夏休みなどを利用して全教員を対象に次に掲げるアンケート調査を実施する考えはないか。

- ① 勤務時間内にどれだけ翌日の授業準備の時間が取れているか。
- ② 勤務時間内に法定の休み時間 45 分を取れているか。

2 スポーツ施設整備について

- (1) 鹿屋市のスポーツ施設整備について
- 本市は、前市長から「スポーツのまち鹿屋」のスローガン、さらには鹿屋体育大学と共同で「スポーツ実施率日本一」も目標に掲げている。令和7年3月定例会で、「「スポーツ実施率日本一」の測定につきましては、まず、競技スポーツと限定するのではなく、徒歩での運動や散歩など生活の中で日常的に行っている活動を意識的に運動と捉えるような取組を推進」と答弁された。
- ① 答弁でもあるように、徒歩での運動は、運動です。スポーツとは言えないと考えるが、見解を示されたい。
 - ② 運動とスポーツの違いも曖昧な現状で「鹿屋スポーツ実施率日本一」の他の自治体との比較検証は、恣意的な比較になるのは目に見えており、あまり意味がないのではないかと考えるが、見解を示されたい。
 - ③ そもそも、市長はこの「スポーツのまち鹿屋」を引き継ぎ、このスローガンを実現する考えはあるのか、見解を示されたい。

- ④ 「スポーツのまち鹿屋」というのなら、大会、合宿を行えるような施設整備（グラウンド）を整えるべきと考えるが、見解を示されたい。

3 都市計画道路文化線について

(1) 文化線の目的、意図、必要性について

市長は令和8年3月定例会の一般質問において、「文化線は国道220号バイパスと市街地のアクセス性向上や、市街地で慢性的に発生している交通混雑の緩和」などを理由にあげ、「鹿屋市としては都市計画道路文化線は将来にわたって持続可能なまちづくりに必要な幹線道路である」と答弁された。

- ① どんな道路であれ、新しくできたら混雑緩和は図られると考えるが、その程度の理由で数十億を超える道路整備に市民が納得するとの考えなのか、見解を示されたい。
- ② 本市では、小中高校前の通学路や生活道路などの整備が進んでいるとは言えず、他に優先すべき道路があると考え、見解を示されたい。
- ③ 文化線はその言葉の通り、文化会館と図書館を今の市役所のところまで一本でつなぐ道路である。市長は選挙戦で「都城のような図書館を鹿屋に作りたい」と語っていたが、文化会館や図書館の将来に構想もない今、都市計画の観点から文化線整備を見直すか、あるいは新しい都市計画を市民に向けて発表する必要があると考えるが、市長の見解を示されたい。